

神津島の火山活動解説資料（令和2年7月）

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1）

前浜南東監視カメラ（天上山の南西約3km）による観測では、天上山山頂部に噴気は認められません。

・地震や微動の発生状況（図2-①②、図3）

神津島付近を震源とする地震は少なく、地震活動は低調に経過しています。火山性微動は観測されていません。

・地殻変動の状況（図2-③~⑥、図4）

GNSS 連続観測及び傾斜計による観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。



図1 神津島 天上山山頂部の状況
（7月21日、前浜南東監視カメラによる）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

次回の火山活動解説資料（令和2年8月分）は令和2年9月8日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、東京都及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警戒等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平29情使、第798号）。

【計数基準の変遷】
 A型地震：2010年10月1日（観測開始）～ 天上山西から半径5km、深さ15km以内
 ※2020年4月18日以降の地震について、暫定的に震源精査の基準を変更しているため、それ以前と比較して微小な地震での震源決定数の変化（増減）が見られます。
 BH型地震：2010年8月2日～2013年9月30日 天上山西振幅0.8μm/s以上
 2013年10月1日～ 天上山西振幅4.0μm/s以上

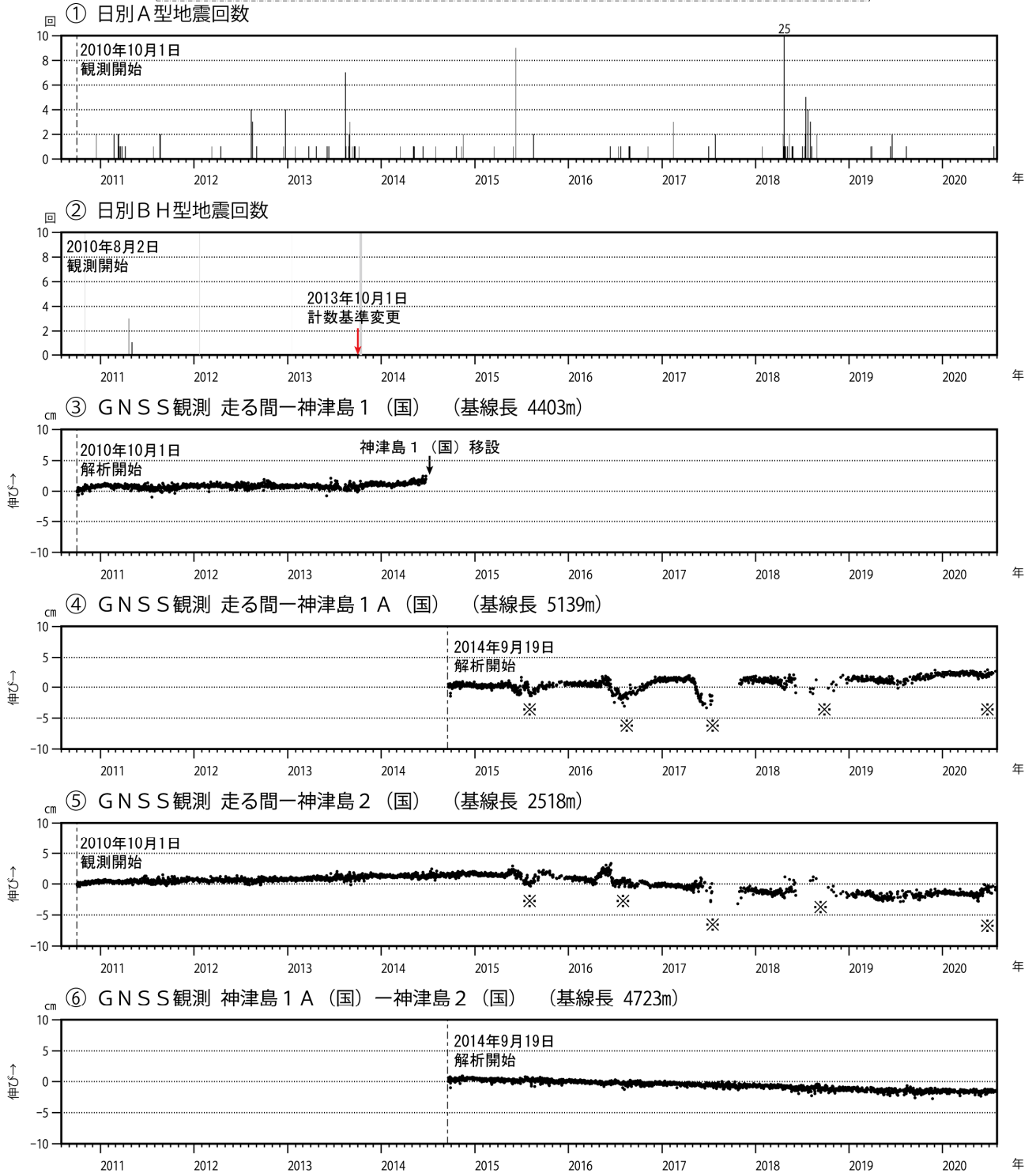


図2 神津島 火山活動経過図(2010年8月2日～2020年7月31日)

- ①②：図の灰色部分は機器障害による欠測を示します。
- ③～⑥：図●のGNSS基線③～⑥に対応しています。空白部分は欠測を示します。
- ④⑤：※の部分は、走る間観測点付近の植生による影響です。
- 2014年9月19日に、神津島1を神津島1Aに移設しました。
- (国)：国土地理院

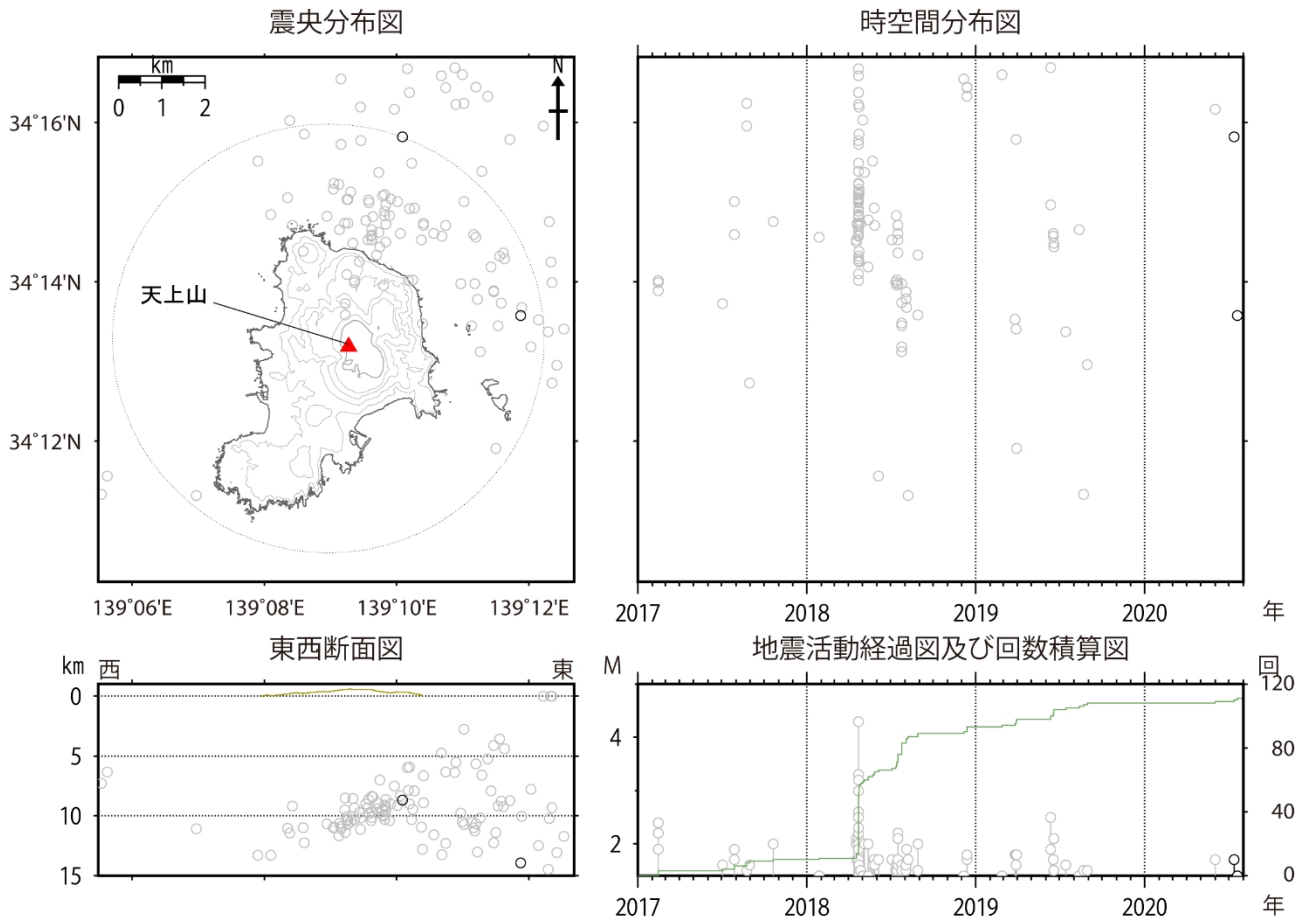


図3 神津島 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動（2017年1月1日～2020年7月31日）
 広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。
 M（マグニチュード）は地震の規模を表し、M1.4以上の地震を示しています。
 図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。
 計数対象（天上山西から半径約5km、深さ約15km以内）以外の地震が含まれるため、図2-①の日別A型地震回数とは異なります。
 震央分布図中の円は火山性地震の回数の計数対象（天上山西から半径5km、深さ15km以内）の範囲を示しています。
 2020年4月18日以降の地震について、暫定的に震源精査の基準を変更しているため、それ以前と比較して微小な地震での震源決定数の変化（増減）が見られます。

・今期間、神津島及びその周辺に震源が求まる地震は少なく、地震活動は低調に経過しています。

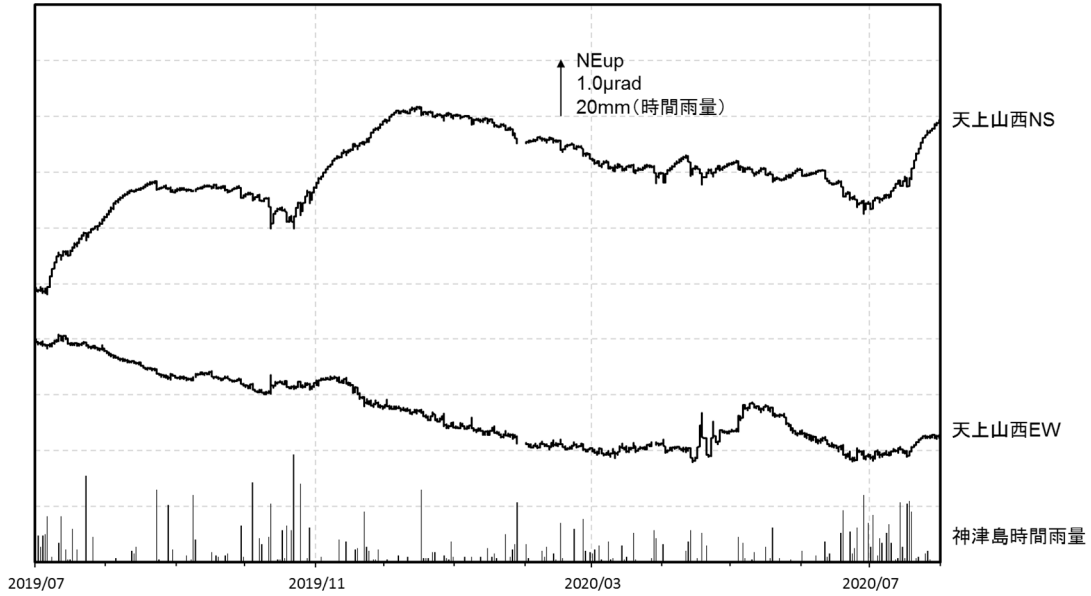
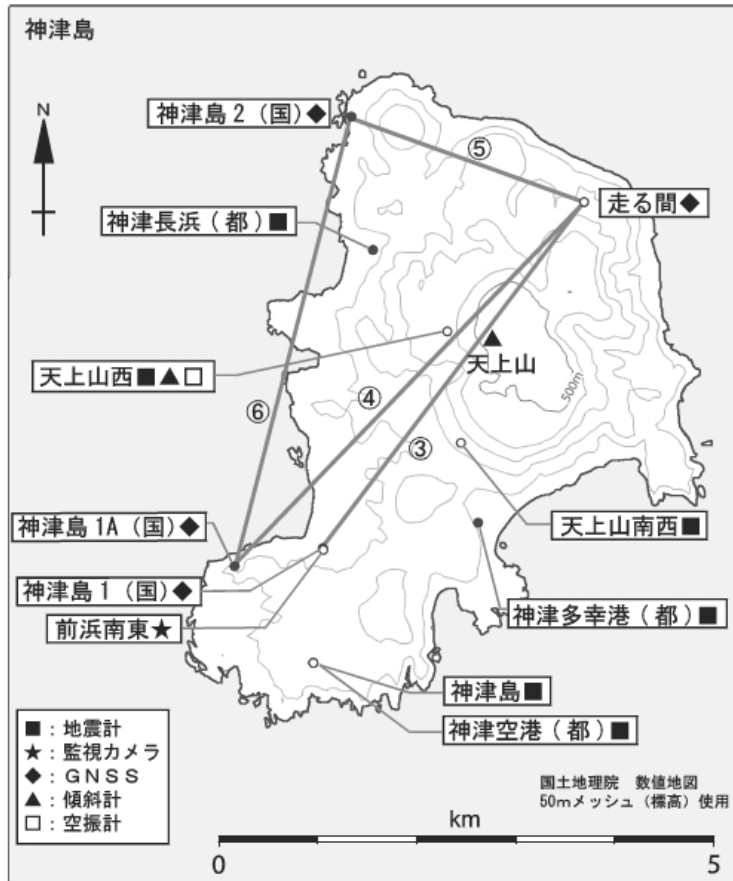


図4 神津島 天上山西観測点の傾斜変動（2019年7月1日～2020年7月31日）
地震等によるステップを除去しています。図中の空白部分は欠測を示します。
・火山活動によるとみられる変動は認められません。



小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(国)：国土地理院、(都)：東京都

図5 神津島 観測点配置図

GNSS 基線③～⑥は図3の③～⑥に対応しています。
神津島1から神津島1Aに2014年9月19日移設。